

本事例の基礎データ

カテゴリ	I C T及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	小学校	事例提供者	町田市立町田第五小学校
学年	4 学年	教科等	算数
単元名	分数をくわしく調べよう		
主な ICT 機器	Chromebook		
ワンポイント	Jamboard を使用し、自分が間違えた問題を分析する。		
「情報活用能力 #東京モデル」 の位置付け	基本的操作	STEP 2	・オフィス系アプリケーションを選択・ 操作できる

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	インタラクティブスタディを使用し、学習の定着を図る。また回答結果をデータで振り返り、自分の得意な問題と苦手な問題を把握する。
【ポイント2】	インタラクティブスタディで間違えた問題を、Jamboard を使用して誤答分析を行う。 誤答傾向の高かった問題を見て、どこが間違いやすいのか解説する。

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動 ・ 児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
1 5 3	<p>●分数の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真分数や仮分数、帯分数の表し方や意味を理解する。 ・図や直線から数を読み取ったり、分数の大きさを比較したりする。 ・数直線や単位分数を基にして、仮分数を帯分数に表す方法を考え、説明する。 ・数直線や単位分数を基にして、帯分数を仮分数に表す方法を考え、説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テープ図や、数直線上に分数を並べて大きさを観察できるようにする。 ☆数直線や単位分数に着目して、分数の大きさや表し方について考え、説明している。
4	<p>●分母が違う分数の大きさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線を用いて、異分母の同値分数や大小関係について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数直線上で、位置が等しい分数は表し方が違うが大きさは同じということを確認する。 ☆簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを理解している。
5 5 7	<p>●分数のたし算とひき算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同分母数の加減計算の仕方を単位分数に着目して考え、説明することができる。 ・同分母の加法計算の仕方を考え、説明することができる。 ・同分母の帯分数の減法計算の仕方を帯分数の構造や既習の加法計算を基に考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○整数部分同士、分数部分同士を計算する考え方、帯分数を仮分数にして直してから計算する考え方を確認する。 ☆同分母の分数の加法および減法の計算ができる。
8 5 9	<p>●インタラクティブスタディ【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かめ問題を行い学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の学習進度をデータで確認しながら、つまづいている児童に声をかける。 ☆基本的な問題を解決することができている。
10 5 11	<p>●誤答分析【ポイント2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がんばり表」を見ながら自分の正誤を確認する。 ・Jamboard を使い、誤答問題を分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誤答がない、もしくは少ない児童は困り感のある児童のサポートに入る。 ☆単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。

本時の流れ

段階	●主な学習活動 ・ 児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で誤答分析のやり方を確認する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 自分のつまずきや苦手な問題を振り返ろう。 </div>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●誤答について振り返りをする。 ・自分がどの部分で間違えていたか、どのようなミスが多かったのかを分析する。 ●誤答分析したことを Jamboard で分かりやすく整理し、全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誤答がない、もしくは少ない児童は困り感のある児童のサポートに入る。 ☆単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。 ☆Jamboard で誤答分析を分かりやすく整理することができる。 <p>【知識・技能】</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●今後自分が問題を解くときにどこに気をつければよいのか振り返る。 	

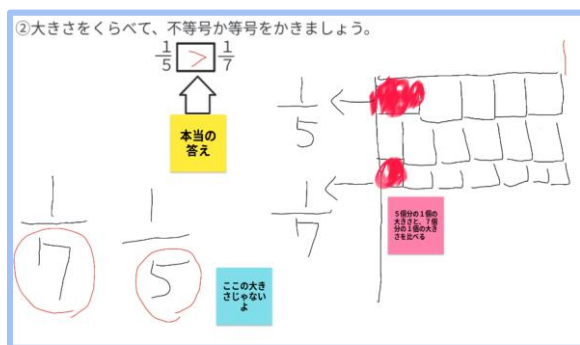
授業の実際

【ポイント1】 ● 1人1台のLTEタブレットPCの活用・インタラクティブスタディ



- ・インタラクティブスタディを活用し、既習事項を確認する。
- ・自分の解いた手順や筆算の流れをノートにメモ・記録させる。（分析の際に活用する）

【ポイント2】 ● Jamboard の活用



- ・分母が大きい数ほど分ける数が多くなることを図で表し、分数の大小関係を説明している。
- ・「意識して誤答を振り返る」から「友達の視点に立って考える」へ
→第三者の視点で相手に伝わるよう意識する論理的思考力を育てる。

今後に向けて

● 誤答分析の視点を活かす

自分のつまずきや苦手部分を把握するだけでなく、今後は「何を学習すれば苦手を克服できるのか」「何を学習すれば更に伸ばすことができるのか」などの明確なビジョンをもてるようにしていく。そのために、他教科でも単元ごとの振り返りの時間を確保し、自分に必要な学びを考えながら学習する意識付けをしていく。

● ICT 活用の充実

教科横断的に Jamboard、「スライド」、「スプレッドシート」、「ドキュメント」を活用する授業場面を増やし、ツールごとの特性やメリット・デメリットを考えさせていく。今後は自分の伝えたい内容や目的に合わせてツールを選び取り、考えを表現できる児童の育成を目指す。